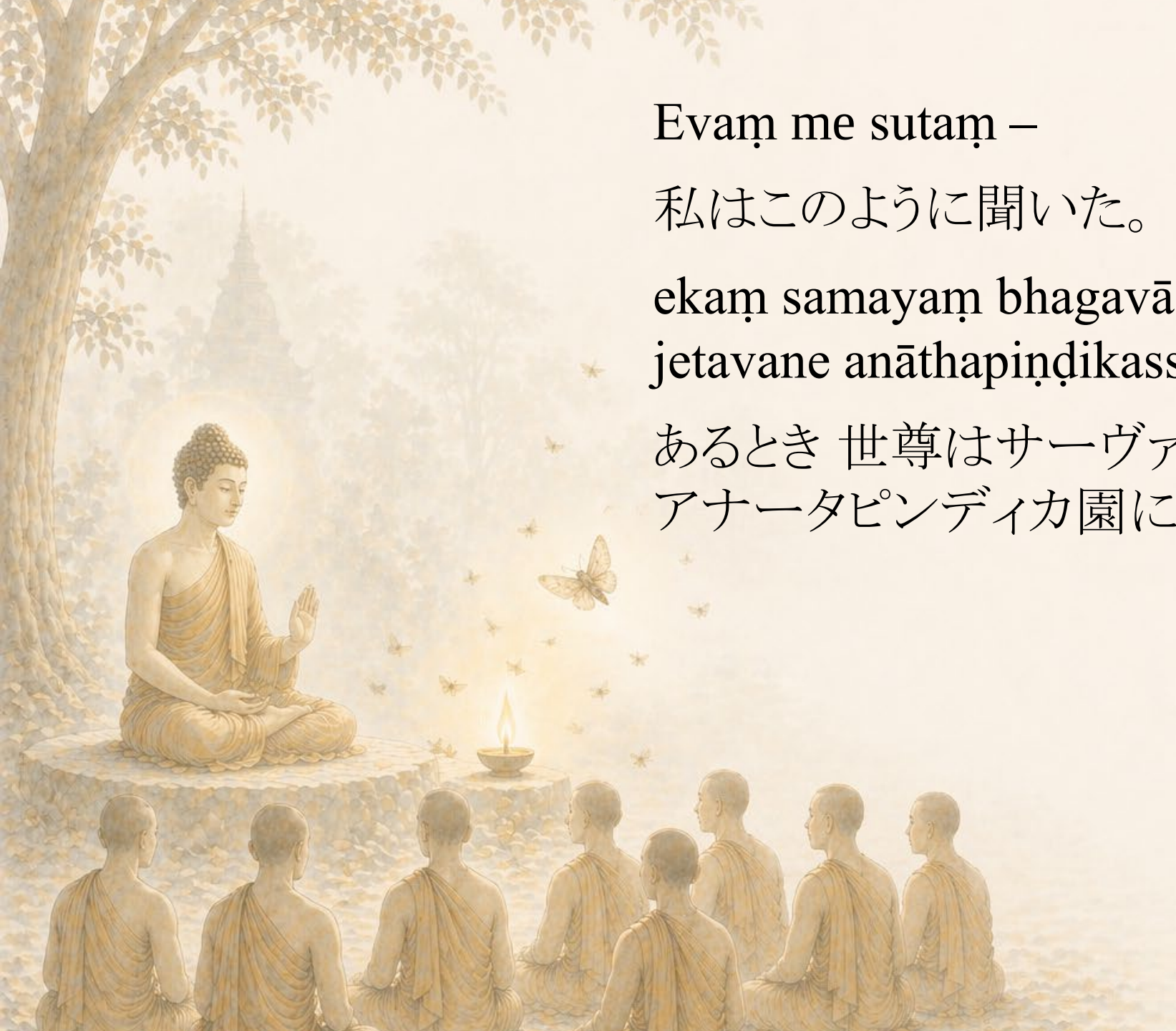
Upātidhāvantisuttaṃ
「走経」
（『感興語』59）

― 飛んで火に入る者は誰 ―



Evaṃ me sutaṃ –

私はこのように聞いた。

ekaṃ samayaṃ bhagavā sāvatthiyaṃ viharati jetavane anāthapiṇḍikassa ārāme.

あるとき 世尊はサーヴァッティーのジェータ林、アナータピンディカ園に住しておられ た。

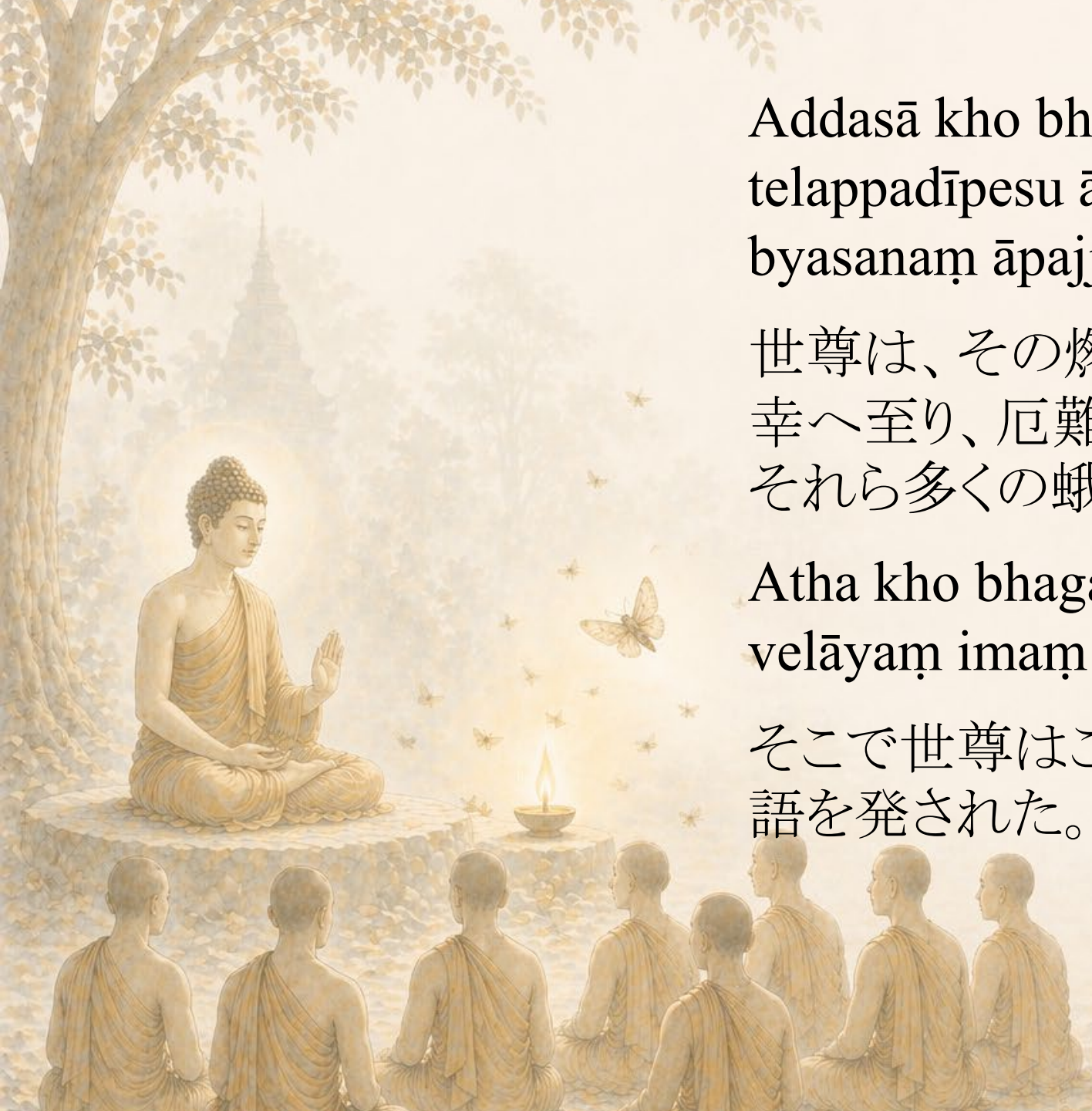
Tena kho pana samayena bhagavā rattandhakāratimisāyaṃ abbhokāse nisinno hoti telappadīpesu jhāyamānesu.

さてそのとき、世尊は夜の暗黒の闇のなか、燃える

灯火（ともしび）のもと、露地（ろじ）に坐っておられた。

Tena kho pana samayena sambahulā adhipātakā tesu telappadīpesu āpātaparipātaṃ anayaṃ āpajjanti, byasanaṃ āpajjanti, anayabyasanaṃ āpajjanti.

しかしてそのとき、多くの蛾（が）たちが、その燃える灯火へ飛び込んでは落ち、不幸へ至り、厄難（やくなん）へ至り、不幸と厄難へ至っていた。

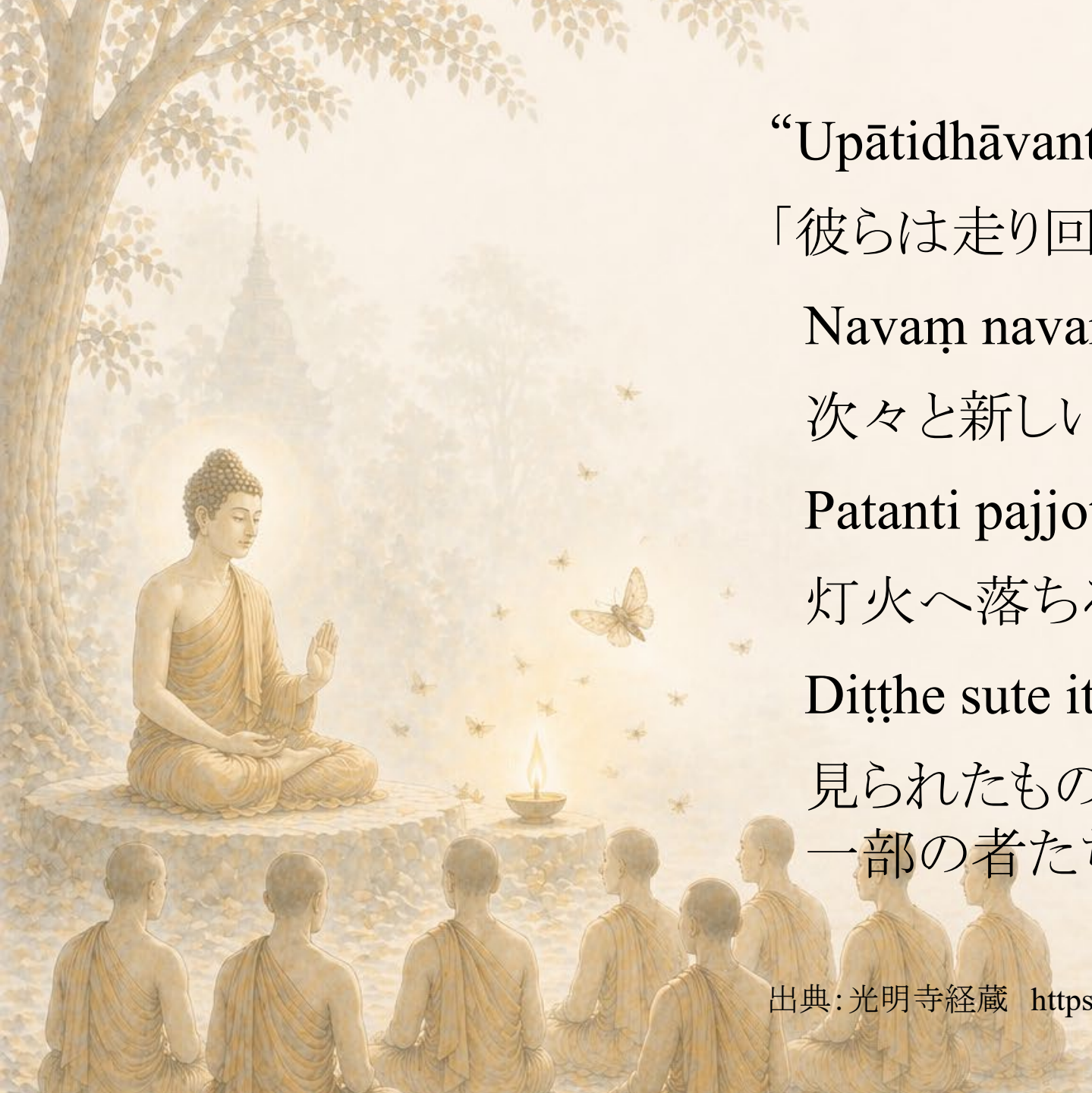


Addasā kho bhagavā te sambahule adhipātake tesu telappadīpesu āpātaparipātaṃ anayaṃ āpajjante, byasanaṃ āpajjante, anayabyasanaṃ āpajjante.

世尊は、その燃える灯火へ飛び込んでは落ち、不幸へ至り、厄難へ至り、不幸と厄難へ至っている、それら多くの蛾たちをご覧になった。

Atha kho bhagavā etamatthaṃ viditvā tāyaṃ velāyaṃ imaṃ udānaṃ udānesi –

そこで世尊はこの義を知って、そのとき、この感興語を発された。



“Upātidhāvanti na sāramenti,

「彼らは走り回り、しかし真髄へ至ることはない。

Navaṃ navaṃ bandhanaṃ brūhayanti;

次々と新しい結縛（けつばく）を増大させる。

Patanti pajjotamivādhipātakā,

灯火へ落ちる蛾（が）たちの如く、

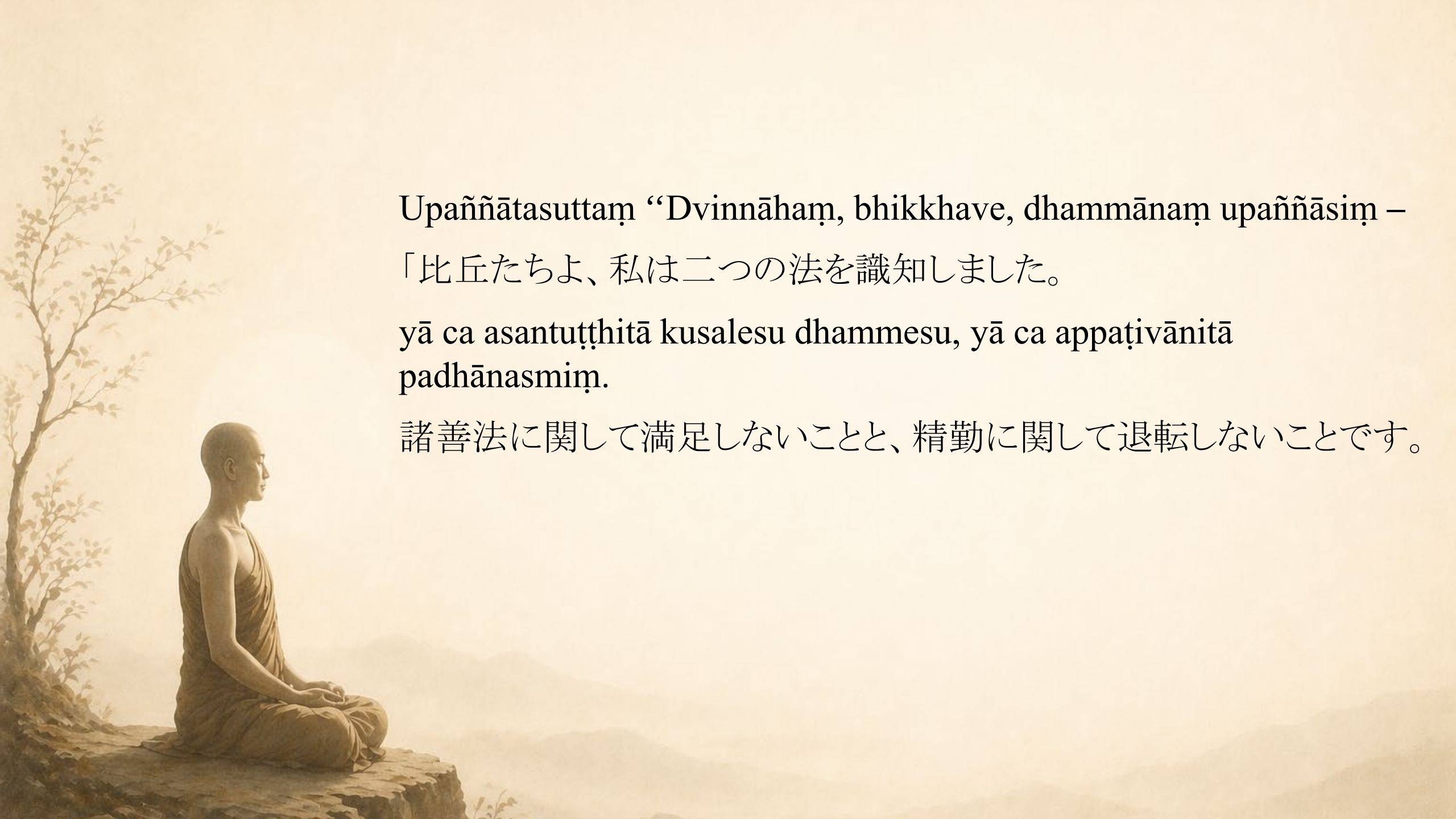
Diṭṭhe sute itiheke niviṭṭhā’’ti.

見られたもの、聞かれたものに、そのように、
一部の者たちは固執する」と。

出典：光明寺経蔵　https://komyojikyozo.web.fc2.com/kn/kn03/kn03c59.htm

Upaññāta suttaṃ
「識知経」
（『増支部』2-5）

— 不退転の覚悟 —

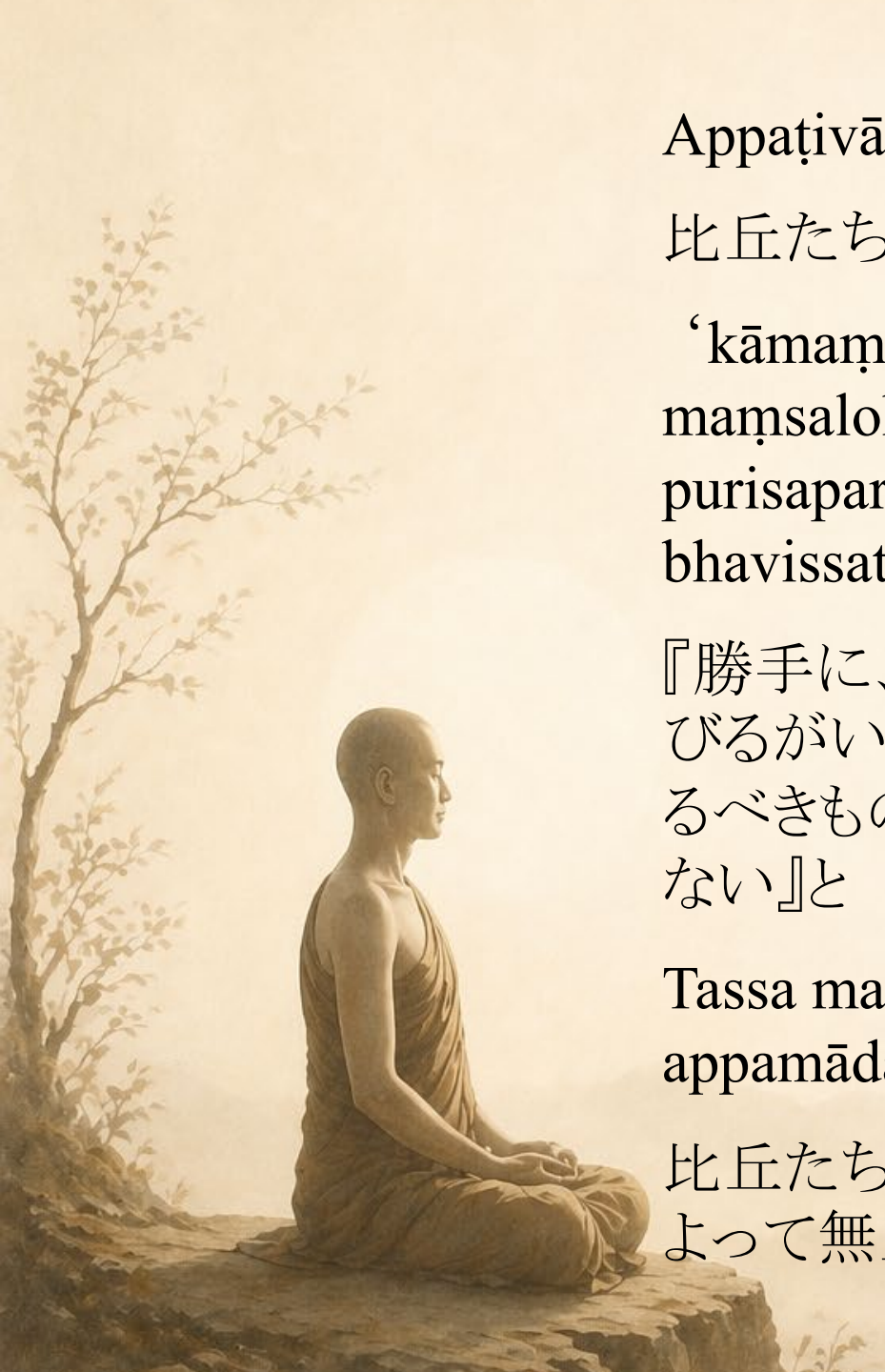


Upaññātasuttaṃ “Dvinnāhaṃ, bhikkhave, dhammānaṃ upaññāsiṃ –

「比丘たちよ、私は二つの法を識知しました。

yā ca asantuṭṭhitā kusalesu dhammesu, yā ca appaṭivānitā padhānasmiṃ.

諸善法に関して満足しないことと、精勤に関して退転しないことです。



Appaṭivānī sudāhaṃ, bhikkhave, padahāmi –

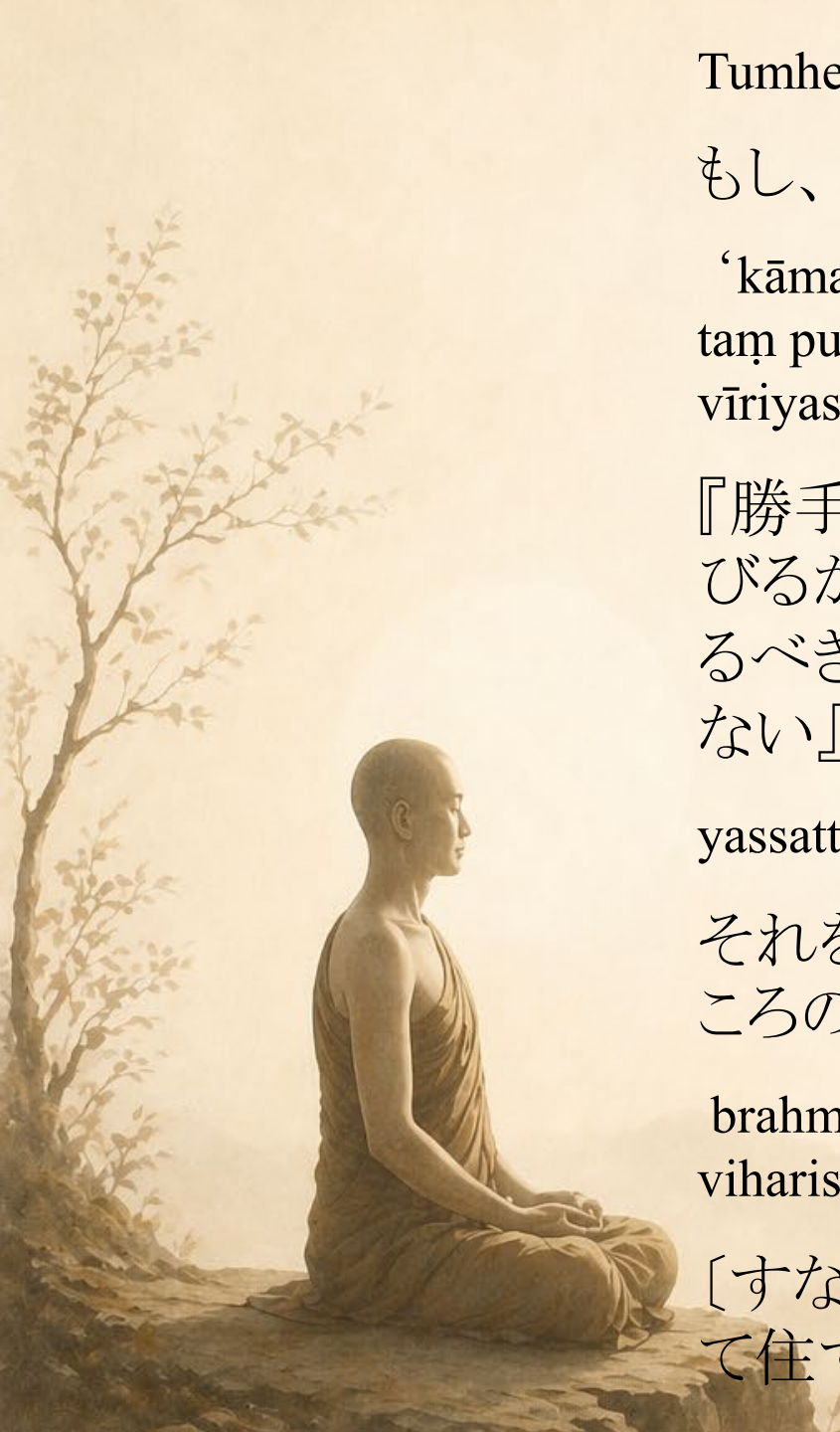
比丘たちよ、私はまさに不退転の者として励みました。

‘kāmaṃ taco ca nhāru ca aṭṭhi ca avasissatu, sarīre upasussatu maṃsalohitaṃ, yaṃ taṃ purisathāmena purisavīriyena purisaparakkamena pattabbaṃ na taṃ apāpuṇitvā vīriyassa saṇṭhānaṃ bhavissatī’ti.

『勝手に、皮膚と筋と骨〔だけ〕が残るがいい。身における肉と血はしなびるがいい。お よそ、人の力、人の精進、人の努力によって得達されるべきもの、それが得達されないま まに、精進が止息することはあり得ない』と

Tassa mayhaṃ, bhikkhave, appamādādhigatā sambodhi, appamādādhigato anuttaro yogakkhemo.

比丘たちよ、その私には、不放逸によって正覚が証得され、不放逸によって無上の軛安穏 が証得されました。



Tumhe cepi, bhikkhave, appaṭivānaṃ padaheyyātha –

もし、あなたがたもまた不退転に励んだとしましょう。

‘kāmaṃ taco ca nhāru ca aṭṭhi ca avasissatu, sarīre upasussatu maṃsalohitaṃ, yaṃ taṃ purisathāmena purisavīriyena purisaparakkamena pattabbaṃ na taṃ apāpuṇitvā vīriyassa saṇṭhānaṃ bhavissatī’ti, tumhepi, bhikkhave, nacirasseva –

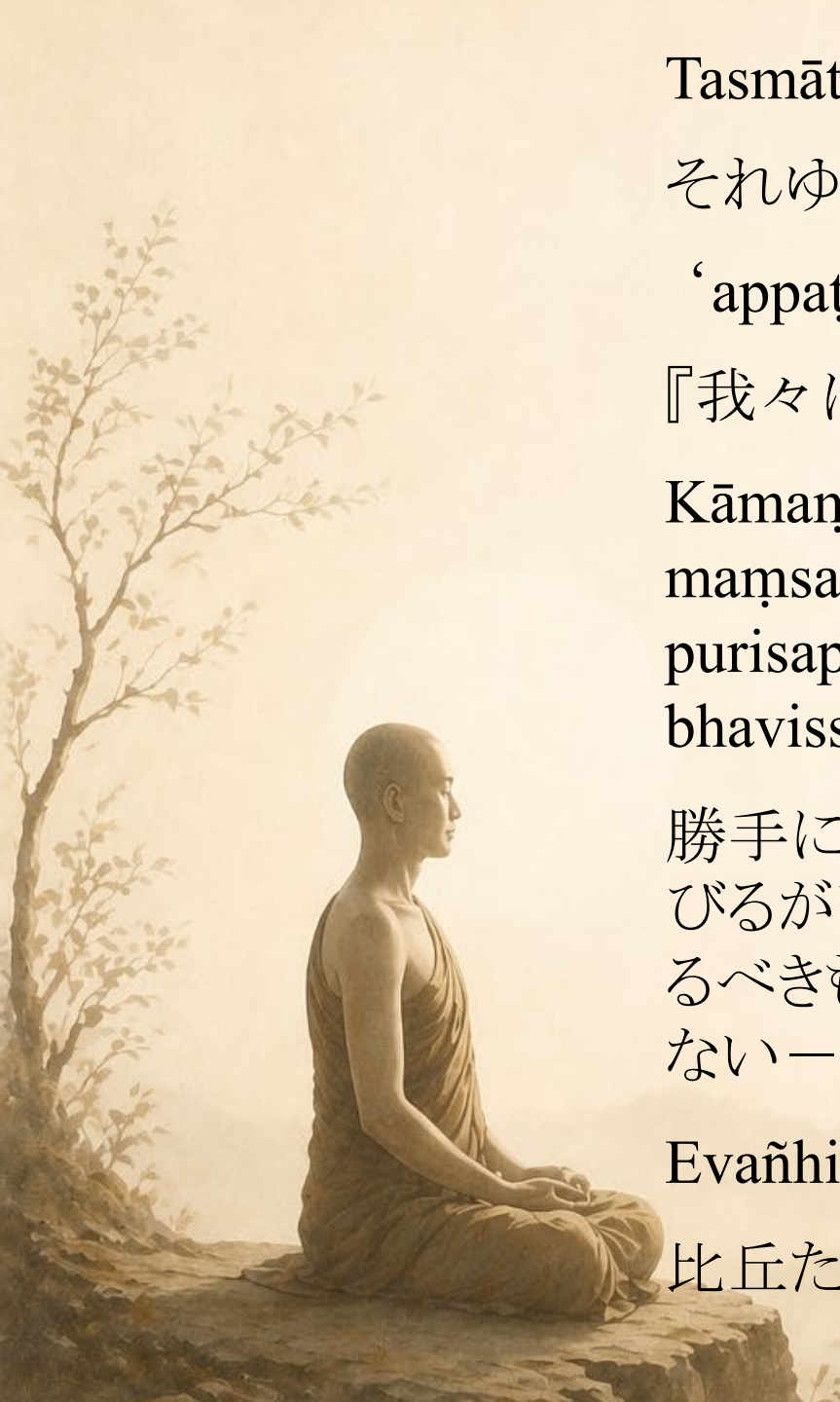
『勝手に、皮膚と筋と骨〔だけ〕が残るがいい。身における肉と血はしなびるがいい。お よそ、人の力、人の精進、人の努力によって得達されるべきもの、それが得達されないま まに、精進が止息することはあり得ない』と。比丘たちよ、〔その場合〕あなたがたもま た久しからずして、

yassatthāya kulaputtā sammadeva agārasmā anagāriyaṃ pabbajanti tadanuttaraṃ –

それを目的として、善男子たちが、正しく俗家から非家へと出家するところの、かの無上 なるもの、

brahmacariyapariyosānaṃ diṭṭheva dhamme sayaṃ abhiññā sacchikatvā upasampajja viharissatha.

〔すなわち〕梵行の完成を、現法において自ら証知し、作証し、成就して住することでしょう



Tasmātiha, bhikkhave, evaṃ sikkhitabbaṃ –

それゆえ比丘たちよ、ここで、このように学ばれるべきです。

‘appaṭivānaṃ padahissāma.

『我々は不退転に励むとしよう。

Kāmaṃ taco ca nhāru ca aṭṭhi ca avasissatu, sarīre upasussatu maṃsalohitaṃ, yaṃ taṃ purisathāmena purisavīriyena purisaparakkamena pattabbaṃ na taṃ apāpuṇitvā vīriyassa saṇṭhānaṃ bhavissatī’ti.

勝手に、皮膚と筋と骨〔だけ〕が残るがいい。身における肉と血はしなびるがいい。およそ、人の力、人の精進、人の努力によって得達されるべきもの、それが得達されないままに、精進が止息することはあり得ないーといって』と。

Evañhi vo, bhikkhave, sikkhitabba”nti.

比丘たちよ、あなたがたによって、このように学ばれるべきです」

出典：光明寺経蔵　https://komyojikyozo.web.fc2.com/an/an02/an02c05.htm